

定住促進関連事業の実用重視評価によるプログラム評価

京都府立大学公共政策学部
教授・上級評価士 窪田好男
博士後期課程2回生 池田葉月

1. 集落の教科書について

集落の教科書とは

移住を検討している人や移住を決めた人に対して、**その地域で暮らす上で必要なルールを説明し**、移住者の獲得と定住促進を目指す情報発信ツール

☆ポイント1:「良いこともそうでないこともちゃんと伝える」

→田舎で暮らすとはどういうことなのかを正確に伝え、移住者と地域とのミスマッチを防止する

☆ポイント2:ルールの濃さを表すアイコン

→どの程度遵守すべきか、必ず覚えておくべきものはどれかを判断できる
読みやすくなり、理解が促進される



集落の教科書が必要とされる背景

①人口減少

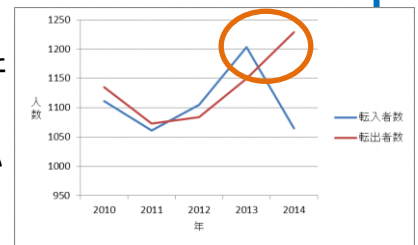
・南丹市の転出者は一貫して増加傾向にあり、2014年には転出超過になった

②移住者がなかなか増加しない

・地域の良い点や魅力を発信していても移住者の増加にはつながっていない
・移住者と地域とのミスマッチによる移住の失敗事例も存在する

一方で...

- ・若い世代の田園回帰の意識は高まっている
- ・3大都市圏に居住している20代の人々と人口5万人未満の市町村における60~70代の人々はともに田舎暮らしや地方への移住に対する関心が高い



(南丹市人口ビジョンより作成)

(国土交通省による調査)

作成のプロセス

①集落の教科書作成に対する地域での合意形成

→住民が主体的に取り組み、移住者に選択してもらえる地域を自分たちで作っていくことが重要

②地域のキーパーソンや住民へのインタビュー

→どのようなルールがあるのかを明らかにする
地域との信頼関係を構築しておくことが重要

③編集

→どのルールを掲載するか、どのような表現やデザインにするかなどを検討する
疑問や反対の意見が出ることもあるが、根気強く説明して全員が納得することが重要

④完成!

→ルールに変更があれば教科書も随時変更していく

まちづくりに取り組むNPOや地域おこし協力隊が
・調査のコーディネート
・会議でのファシリテーション
・編集に必要なスキル
などをサポート

2. 評価結果

評価の枠組み

実用重視評価 (Utilization-Focused Evaluation) の手法を用いて評価し、評価結果を**報告書と動画**で発信する

- ① 評価対象事業を選定
定住促進関連事業の中から集落の教科書の作成を選定
- ② インタビュー
 - ・ 事業担当者: 事業の概要や目的を調査する
 - ・ 作成に取り組んだ地域のキーパーソン: 作成のプロセスや苦労した点、実感している効果などを調査する
 - ・ 移住体験中の方: 移住を考えたきっかけや集落の教科書に対する考えなどを調査する
 - ・ 他地域での事例(石川県七尾市): 一般化可能性(外的妥当性)を検討する
- ③ 文章中心の報告書、ビジュアル面も重視した報告書、動画によって評価結果を発信



目的の実現……実現している

目的: 移住者と地域の間でミスマッチが生じることを防止するとともに移住者を獲得し、定住を促進すること

効果① 多くの人に同じように伝えることができる

- ・ 口頭で説明すると人によって内容や説明の程度に差が生じる
- ・ 文書の形にまとめたものがあれば聞くだけでなく見て理解でき、何度も確認できる

効果② 移住者が増加した

- ・ 中世木地域には10組程度の移住者が来た
- ・ 集落の教科書をインターネット上で見て、世木地域で現在移住体験中の人もいる
- ・ KPIとして設定されている空き家活用件数と移住相談件数も増加している

副次的効果……あり 弊害……なし

副次的効果: 自分の集落と他の集落のルールの違いや、自分の集落のルールの意義を改めて確認できる

※七尾市で確認できたその他の副次的効果

- ① 作成した集落の教科書や作成のプロセスで得たり学んだりしたことは地域おこし協力隊としての今後の活動にも役立つと感じている
- ② 石川県や移住者向けのサイトからも取材を受けており、七尾市に対する市外からの注目が高まっている

※予想される弊害

- ① 「良いことではない」点を示すことで移住者が来なくなってしまう
- ② 口頭で伝えられてきたルールを文章化することによって必要以上にとらわれてしまう
- ③ 適切に文章化できず、不正確なルールが広まってしまう



一般化可能性(外的妥当性)……あり

普及状況

- ① 南丹市内: 日吉町世木地域、美山町北村、美山町宮島地区、園部町摩気地域
- ② 南丹市外: 宮城県丸森町、石川県七尾市、亀岡市保津町、香川県財田町

→南丹市外でもある程度普及しており、一般化可能性(外的妥当性)はあると言えるが、高いとは言えない
作成には相当の時間と労力を要すること、予算とのバランスは阻害要因となっている可能性がある